



# 直江津区 地域協議会だより

No.  
83

発行：直江津区地域協議会

## 【項目】

- ▶地域協議会からの報告
  - ・福島城のジオラマを佐渡汽船ターミナルへ移設します！
- ▶直江津区にあった幻の城「福島城」をご存じですか？

## ■地域協議会からの報告 ～会議の内容等について報告します～

### ・福島城のジオラマを佐渡汽船ターミナルへ移設します！

令和7年8月19日に福島城を愛する会と意見交換を行い、福島城資料館（旧古城小学校）に展示している福島城のジオラマ等の資料を有効に展示したいとの意向を受けて、当協議会で移設先の検討を行ってきました。

検討の結果、福島城址に近い場所にあり、人が多く訪れる、佐渡汽船ターミナルが候補に挙がったことから、佐渡汽船(株)へ福島城を愛する会とともに相談に伺いました。



▲福島城を愛する会作成の福島城のジオラマ

佐渡汽船(株)からは、1階ターミナルへのジオラマ設置について快く承諾いただきました。

今までは事前連絡がなければ見るのできなかったジオラマを、今後はいつでも見ることができます。また、5階の展望室からは福島城があった場所を眺めることもできます。3月中には移設できる見込みですので、ぜひ皆さん見に行ってみてください。

## ・地域協議会を傍聴してみませんか？

地域協議会の会議は、どなたでも傍聴していただけます。

直江津区の暮らしに密着した話し合いを行っていますので、お気軽に傍聴にお越しください。

活動の詳細はホームページをご覧ください。

♪パソコンからアクセス

上越市ホームページ>組織で探す>  
北部まちづくりセンター>  
地域協議会の活動状況（直江津区）



## 直江津区にあった幻の城「福島城」をご存じですか？

当協議会では、地域活動により引き継がれてきた福島城の貴重な資料を多くの皆さんに見てもらえる方法について話し合ってきました。

直江津区内に住む皆さんでも福島城について知らない方もいるのではないのでしょうか。そこで、かつて直江津区にあった「幻の城」について、少し学んでみましょう。

### ・わずか7年間という短命だった城「福島城」

上越地域は奈良時代に国府が置かれ、越後の政治経済の中心地として発展しました。室町時代には直江津駅の南側一帯に、今の県庁の役割を果たす越後守護所がおかれて守護大名上杉氏が国の政務をとり、その守護所を守るために春日山城が築かれたと言われています。

春日山城以来、福島城、高田城と、上越市には性格も時代も違う城が三つありました。どれも越後一国の城にふさわしい大きな城でした。その一つの福島城は、わずか7年間という短い期間で廃城になり、高田城に移ったため、その全容は今でもよくわかっていません。では、上越の大切な一ページとして、福島城をひもといてみましょう。

今から400年以上前の1598年、豊臣秀吉は春日山城の上杉景勝（謙信の跡継ぎ）に会津（今の福島県）へ行くように命令します。代わりに越前（今の福井県）から堀秀治（ひではる）を春日山城に入れました。

堀家は港の機能を十分に活用できる城として、港町の旧古城小学校付近に7年ほどかけて福島城を築城しました。しかし、秀治は31歳という若さで福島城の完成を見ることなく亡くなってしまいました。

秀治の子はまだ幼く、家臣の間で争いが起こってしまったため、幕府の命令で堀家は取り潰しになってしまいます。

（堀家三代の墓は林泉寺にある）代わって徳川家康の六男の松平忠輝が福島城に入りました。しかし忠輝は1614年に高田城を築いて移ってしまったため、福島城はわずか7年間で廃城となってしまいました。

全容が謎に包まれた福島城は、昭和41年から4年にわたって、当時の直江津市によって発掘調査が行われ、立派な石垣がめぐらされた城であることが分かりました。二の丸、三の丸は現在の港町、市之町、西福島（ここに「福島」の地名が残る）、佐内、春日新田（一部）という広さで多くの蔵や武家屋敷がありました。現在は、旧古城小学校の敷地に発掘を指導した堀氏の末裔である奥田直榮（なおしげ）氏筆の「福島城址」の碑とともに、発掘された石垣の石を見ることができます。

※本文は「福島城をひもとく」（福島城を愛する会作成）等を基に作成しています。



▲旧古城小学校の敷地にある  
福島城址の碑

【直江津区地域協議会事務局】



上越市地域政策課

北部まちづくりセンター

所在地：上越市中央1丁目16番1号  
（レインボーセンター2階）

電話：025-531-1337

FAX：025-531-1338

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp